

平成 23 年度

病害虫発生予報第 1 号

平成 23 年 4 月 21 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス（イチゴのヒラズハナアザミウマについて）	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**やや遅**、発生量は**平年並**と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**やや少**と予想されます。開花始めから開花盛期に予防防除してください。

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑）、ミカンハダニの発生は**やや多**と予想されます。かいよう病（中晩柑）では伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、圃場外で処分してください、また、天候（風雨）に注意し、適切に薬剤防除してください。ミカンハダニの発生量は圃場によりばらつきがありますので、発生状況をよく観察し、多発圃場では適切に防除してください。そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は**平年並**と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**少**と予想されます。

3) 茶

チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。発生にばらつきがあるので、発生状況をみて必要があれば防除しましょう、カンザワハダニ、クワシロカイガラムシ、チャノコカクモンハマキの発生は**やや少**、チャノホソガの発生は**少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。発生の確認される圃場では注意してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや遅	平年並	小	普通					1) 近年、発生が少ないので、田植え後に発生状況に応じて防除して下さい。 2) 常発圃場では、箱施用による予防防除を行ってください。
コムギ	赤かび病	-	やや少	小	普通					1) 病害虫防除技術情報第1号(4月12日発表)。 2) 開花始めから開花盛期に予防防除して下さい。 3) 4月20日頃から約1週間は、低温が続くと予想されており、開花が遅れる可能性があります(4月15日発表・低温に関する異常天候早期警戒情報)。
カンキツ	そうか病	-	平年並	小	低					1) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。 2) 新葉に病斑が見られる圃場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	温州 小 中晩柑 中	温州 低 中晩柑 普通					1) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防的防除がポイントです。 2) 越冬病斑が多い圃場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、圃場外で処分してください。 3) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。 4) 風雨により感染が助長されるので、天候に注意し、予防防除に努めてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	ミカンハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。 2) 発生量は圃場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。 3) 成虫が1葉当たり0.5～1.0頭になったら防除を計画してください。
	黒星病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。
	赤星病	—	平年並	小	低	ジャクシン類の冬孢子発芽		ナシの発病		<ul style="list-style-type: none"> 1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。 2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。
	アブラムシ類	—	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ		ナシミドリオオアブラムシ		<ul style="list-style-type: none"> 1) アブラムシ類は初期の寄生を見つけることが重要です。 2) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ発見の目安になります。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。 2) 防除は圃場及び圃場周辺（街灯への夜間飛来など）への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。 			
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 圃場の一部で孵化が確認されますが、発生量にばらつきがあるので、発生状況を確認して防除してください。 2) 防除する場合は、収穫前日数に注意してください。 			
	チャノホソガ	—	少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除適期は新芽が展開し幼虫が葉裏にいる時期です。 2) 葉裏の産卵状況を見て防除してください。 			
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽の裏に産卵します。 2) 北勢地域で多い傾向があります。 3) 第一世代の発生ピークは、5月第4週ごろと思われます。 4) 発生が多い圃場では一番茶適採後に防除してください。 			
	クワシロカイガラムシ	—	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 平年の孵化最盛期は5月20日前後ですが、今年はやや遅いと思われます。防除適期は、孵化最盛期から5~7日後です。 2) 株内の枝や幹に寄生しています。 3) 圃場によって発生にばらつきがありますので、発生状況を確認して防除しましょう。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						4月	5月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
チャ	チャノコカクモンハマキ	-	やや少	小	低	成虫密度					<p>1) 成長すると葉を 2、3 枚綴り、薬液がかかりにくくなるので、孵化後間もない若齢幼虫を対象に防除してください。</p> <p>2) 防除適期は成虫の発生ピークの 7~10 日後、5 月第 2 週目頃と思われます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	中	普通	成ダニ密度					<p>1) 圃場によって発生量にばらつきがみられますが、平年と比較してやや多い傾向です。</p> <p>2) 気温の上昇とともに増加しますので、こまめに発生状況を確認してください。</p> <p>3) 薬剤による防除を行う場合は、収穫前日数と総使用回数を守り、葉裏にもかかるよう十分な散布を行ってください。また、天敵、ミツバチ等を使用する場合は、これらへの影響に注意してください。</p>

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや遅	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（4月15日発表）によると、気温は高くない予想（発生時期+）</p> <p>2) 予察灯（4月第1半旬～第3半旬）では、未飛来（平年初飛来4月26日）と平年並（発生時期±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（昨年8月）では、発生圃場率19.4%（平年11.2%）と多、払い落とし虫数0.5頭（平年1.3頭）と少（±）</p> <p>考察： 今後の気象条件を重視して、発生時期はやや遅、また昨年の巡回調査結果から、越冬成虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（4月15日発表）によると、平年に比べて晴れの日が多く、気温は高くない予想（-）</p> <p>2) 一般圃場では、生育進度がやや遅く、開花期もやや遅い見込み（+）</p> <p>考察： 一般圃場の状況から、開花期が遅れる可能性があります、今後の気象条件を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（4月15日発表）によると、向こう1か月の気温は高くなく、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) 県予察圃では、4月18日現在未確認（平年4月19日）（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第2～3週）では、全調査圃場で病斑未確認（旧葉発病度平年0.3）（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～並（概して少）（-）</p> <p>考察： 現状の発生は平年並に少なく、急増する要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（4月15日発表）によると、向こう1か月の気温は高くなく、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) 県予察圃（中晩柑類4月12日）では、越冬病斑の発病葉率は30.1%（平年35.5%）と平年並の傾向（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第2～3週）では、温州みかんでは旧葉発病度0.1（平年0.2）と平年並に少（±）、中晩柑類では旧葉発病度6.7（平年1.8）と多（+）（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並の傾向（±）</p> <p>考察： 温州みかんでは平年の発生は少なく、今後増加するとは考えにくいことから、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では旧葉での発病が目立つ圃場があり、今後の気象要因を考慮しても、発生が増加傾向になると思われ、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ミカンハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の気温は高くなく(-)、降水量は多くない(+) 2) 県予察圃(4月中旬)では、100葉当たり寄生虫数は、無防除区 15.6頭(平年 81.0頭)とやや少(-)、防除区 2.2頭(平年 1.2頭)とやや多(+) 3) 巡回調査圃場(4月第2~3週)では、旧葉寄生率は 8.5%(平年 6.3%)とやや多、発生圃場率は 46.2%(平年 37.0%)と多の傾向 4) 一般圃場では、発生量は少~並(概してやや少) 考察： 現状の発生はやや多と考えられ、大きな増減の要因はないことから、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の気温は高くなく、降水量は多くない予想 2) 巡回調査圃場(4月第2~3週)では、発病芽率は 0.0%(平年 0.0%)と平年並 3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 考察： 現状の発生は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の気温は高くなく、降水量は多くない予想 2) 巡回調査圃場(4月第2~3週)では、展葉見られず発生は未確認(発病葉率平年 0.0%) 3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 考察： 現状の発生は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の気温は高くなく(-)、降水量は多くない(+) 2) 巡回調査圃場(4月第2~3週)では、展葉見られず寄生は未確認(寄生葉率平年 0.0%) 3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 考察： 現状の発生は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の気温は高くなく(-)、降水量は多くない(+) 2) 巡回調査圃場(4月第2~3週)では、寄生枝率 0.0%(6年平均 0.4%)と平年並の傾向 3) 一般圃場では、平年並で多くの圃場で寄生は未確認 考察： 現状の発生は未確認圃場が多く平年並と考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町4月1日~10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年3.4頭)平年並に少(±)、ツヤアオカメムシ0頭(平年17.6頭)とやや少(-) (-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市4月1日~15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0.2頭)、ツヤアオカメムシ0頭(平年0.2頭)といずれも平年並(±)</p> <p>3) 県予察圃フェロモントラップ(4月1週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)、中間地(津市白山町二本木)、平地地(松阪市嬉野川北町)とも0頭で平年並の傾向(±)</p> <p>4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1地点当たり0.8頭(平年1.1頭)とやや少、クサギカメムシの越冬量は、1地点当たり6.5頭(平年45.9頭)と少(-)</p> <p>5) 巡回調査圃場(4月第2~3週)では、飛来は未確認(±)</p> <p>考察: 現状の予察灯、フェロモントラップへの誘殺数、越冬量とも少ないと考えられ、今後の圃場への飛来数の予想発生量は少と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の降水量は多くなく(+)、気温は高くない予想(-) (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、寄生葉率は7.0%(平年8.6%)とやや少(-)、寄生頭数は1.1頭/葉(平年1.1頭/葉)と平年並(±) (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、旧葉寄生率は0.3%(平年5.4%)と少、寄生頭数は0.1頭/葉(平年0.3頭/葉)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われ、大きな増加要因はないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃では、本年の越冬世代成虫の初飛来は4月7日(平年3月17日)と遅い(-)</p> <p>2) 県予察圃では、一番茶萌芽期は4月15日(平年4月9日)と遅い(-)</p> <p>3) 県予察圃フェロモントラップ誘殺数(4月第3半旬)は、8.0頭(平年173.6頭)と少(-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発生量は少の傾向(-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量はやや少(-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と思われ、大きな増加要因はないので、第1世代幼虫の予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ捕殺数(4月第1~第3半旬)は、9.0頭(平年148.0頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、たたき落とし虫数は6.5頭(平年1.5頭)と多(+)</p> <p>考察: 巡回調査圃場の状況を重視して、第1世代幼虫の予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	クワシロカイガラムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(4月第2週)では、雌成虫寄生株率は7.0%(平年15.3%)と少 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 圃場によるばらつきはありますが、現状の発生量はやや少と思われ、大きな増加要因はないので、第1世代幼虫の予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ誘殺数(4月第1~第3半旬)は、27頭(平年63.4頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、ハマキムシ類巻葉数は0.1枚/m²(6年平均0.1枚/m²)と平年並の傾向 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われ、大きな増加要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月15日発表)によると、向こう1か月の気温は高くなく(-)、降水量は多くない(+) 予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率は14.2%(7年平均14.9%)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 圃場によって差はありますが、一般圃場の現状の発生量を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「イチゴのヒラズハナアザミウマについて」

1 イチゴで問題となるアザミウマ類

イチゴで問題となるアザミウマ類には、主に花や果実を加害するヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマ、主に新芽や若葉を加害するチャノキイロアザミウマがいます。今回は、これらの中からヒラズハナアザミウマについて紹介します。



写真1. ヒラズハナアザミウマ雌成虫

2 ヒラズハナアザミウマとは

雌成虫は体長約 1.5mm で、体色は褐色です(写真1)。雄成虫は雌に比べてひと回り小さく、体長約 1.1mm で、体色は黄色です。幼虫の体色は淡黄色ですが、餌植物などによっては橙色になる場合もあります。

成虫、幼虫とも花を好み、主に花粉や花弁を吸汁加害します。餌植物はイチゴを含むバラ科の他、ウリ科、ナス科、キク科、マメ科など非常に広範で、多くの雑草の花にも寄生します。

野外では春から秋に発生が多く、温暖な地域では年間 10 世代程度を経過します。雌 1 頭あたりの産卵数は約 500 個で、繁殖力が極めて高いアザミウマです。



写真2. 花の褐変被害

3 イチゴでの被害について

イチゴでは主に花や幼果が加害されます。花が加害されると、全体が褐変して汚れた感じになります(写真2)。幼果では加害された部分が光沢を失い、

表面が褐変します。加害初期は種子周りの凹んだ部分が褐変し(写真3)、ひどくなると果面全体が褐変したり(写真4)、加害部が硬化して肥大が阻害されたりします。ミカンキイロアザミウマでも同様の被害が生じますが、三重県ではヒラズハナアザミウマによる場合がほとんどです。



写真3. 果実の初期被害

4 防除のポイント

施設イチゴで発生が増加するのは、気温が上昇する 3 月以降です。増殖力が高いので、「早期発見・早期防除」が重要です。多くの場合、施設の換気に伴って野外から侵入し、増殖すると考えられます。換気口や出入口付近を中心に、花をよく観察すると見つけることができます。特に、雌成虫は褐色なので、肉眼でも十分確認できます。花に息を吹きかけると、アザミウマが動いて見つけやすくなります。また、白い紙などの上で花をたたいて虫を落とすのも、ひとつの方法です。

防除薬剤は登録内容をよく確認して使用してください。また、天敵を導入している場合は、それらに対する影響に注意してください。

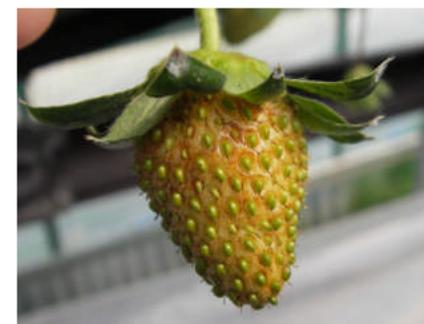


写真4. 果実の激しい被害

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 23 年 4 月 15 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。特に、期間の前半は換気の影響を受けやすく、気温が平年よりかなり低くなるおそれがあります。

1 週目 4 月 16 日～ 22 日	気圧の谷や換気の影響で雲が広がりやすく、期間の中頃にかけて雨の降る日があるでしょう。期間のはじめと終わりには高気圧に覆われて晴れる日もある見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.3 日・4.2 日
2 週目 4 月 23 日～ 29 日	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ高気圧に覆われやすく晴れの日が多い見込みです	同 2.3 日・4.2 日
3～4 週目 4 月 30 日～ 5 月 13 日	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 4.7 日・8.0 日

東海地方週間天気予報 (平成 23 年 4 月 20 日 10 時 35 分 名古屋地方気象台発表)

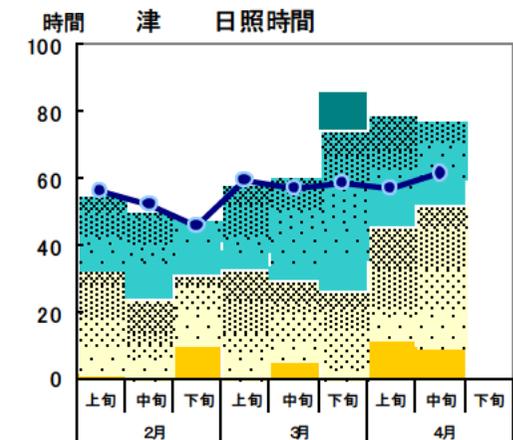
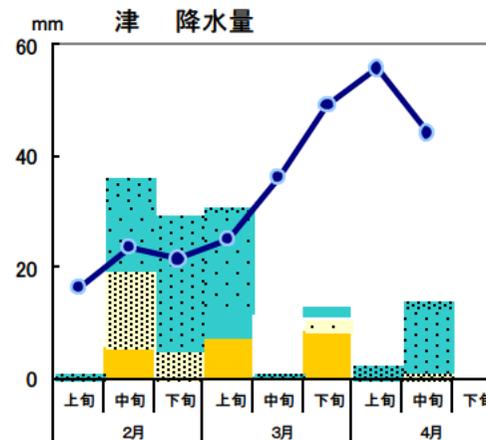
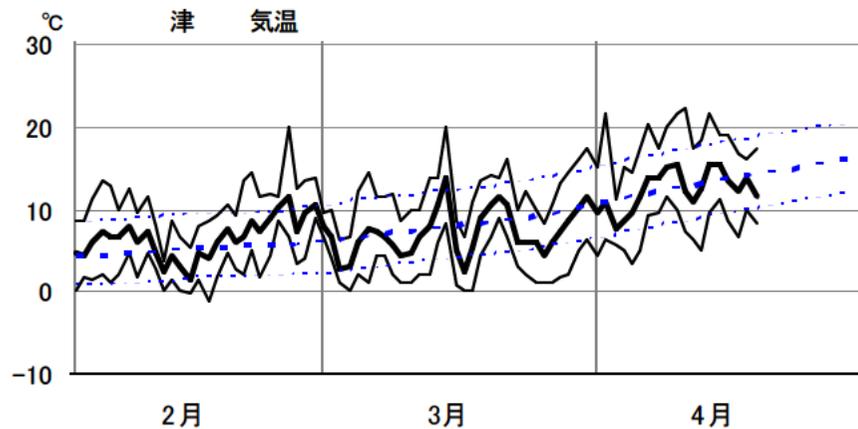
予報期間 4 月 21 日～4 月 27 日

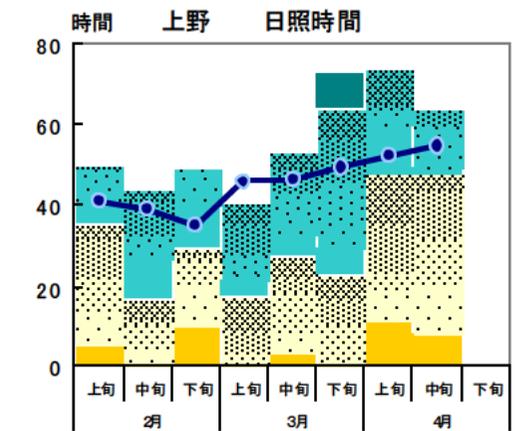
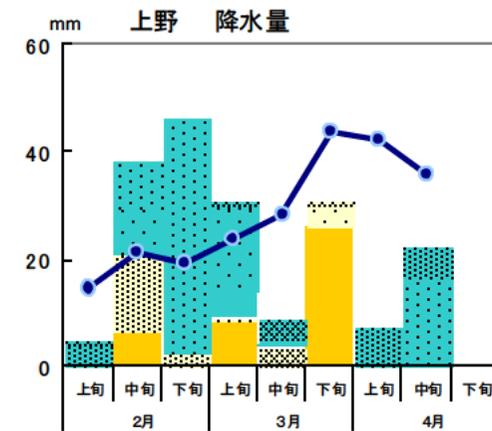
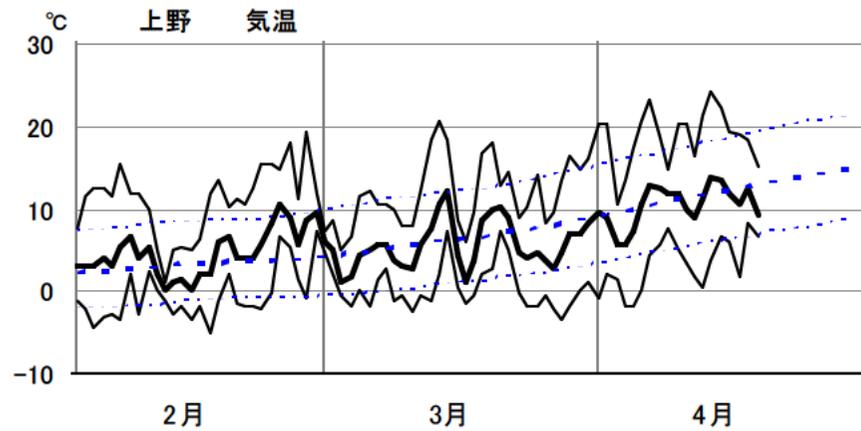
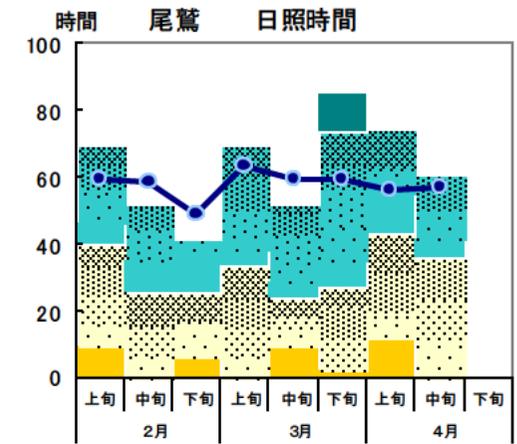
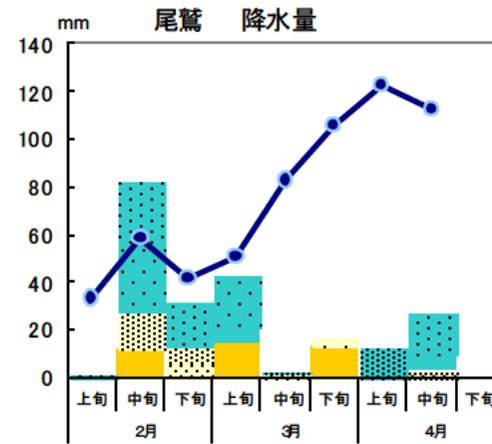
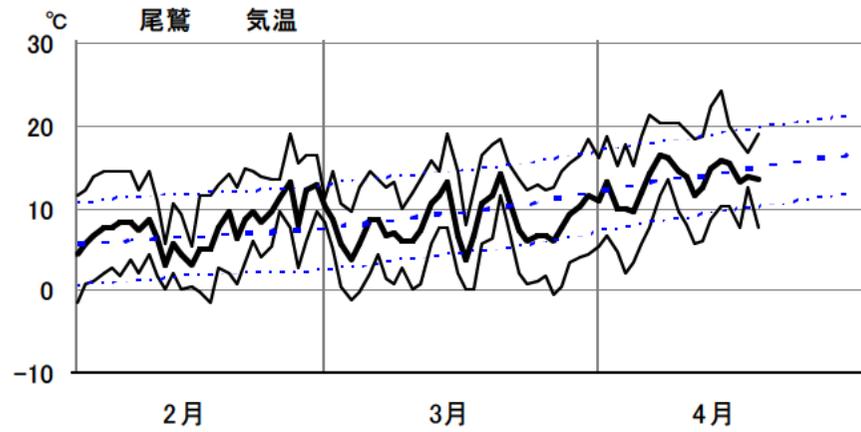
向こう一週間は、21 日と期間の終わりには晴れる日もありますが、その他は低気圧や寒気の影響で雲が広がりやすく、期間の中頃には雨の降る日があるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より低い見込みです。

降水量は平年並でしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> から作成) (4 月 19 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- 平年 平均
- 平年 最高
- 平年 最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月21日(今回) 第2回 5月26日(木)

第3回 6月23日(木) 第4回 7月21日(木)

第5回 8月18日(木) 第6回 10月20日(木)

第7回 3月22日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。(昨年度末からアドレスが新しくなっています)

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。(アドレスが新しくなりました)

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。(昨年度末からアドレスが新しくなっています)

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm